

3. 事業報告書

令和3年度（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

(1) 農作物共済関係

(引 受)

年産	共済目的	引受方式	組合員数	引受面積	共済金額	徴収 共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料(△) (B)	手 持 共済掛金 (A)±(B)		
			人	a	円	円	円	円		
3年産	水稻	一 筆	24,029	1,285,913.4	8,210,512,201	3,108,028	/	/		
		全 相 殺	242	184,593.5	1,194,850,330	2,156,947				
		半 相 殺	52	3,450.8	25,073,452	7,496				
		インデックス	42	8,219.1	66,954,819	2,392				
		計	延 24,365 実 24,339	1,482,176.8	9,497,390,802	5,274,863			5,117,335	10,392,198
	麦	一 筆	8	4,045.1	6,442,094	134,702	/	/		
		災害収入共済	125	162,921.6	554,732,922	19,875,150				
		計	延 133	166,966.7	561,175,016	20,009,852			△ 11,042,127	8,967,725
			実 132							
	4年産	麦	半相殺	4	1,872.7	3,675,538	119,095	/	/	
災害収入共済			110	139,938.6	489,276,565	14,901,834				
計			延 114	141,811.3	492,952,103	15,020,929	△ 4,372,235			10,648,694
			実 113							

(参 考)

年産	共済目的	事 項	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金
3年産	水稻	前年度対比	% 92.6	% 92.5	% 95.3	% 12.3
		事業計面对比		% 93.3	% 96.3	
		10a当たり			円 64,077	
		1組合員当たり		a 60.9	円 390,213	
	麦	前年度対比	% 84.6	% 84.5	% 89.0	% 83.5
		事業計面对比		% 69.3	% 77.9	
		10a当たり			円 33,610	
		1組合員当たり		a 1,265	円 4,251,326	
4年産	麦	前年度対比	% 85.6	% 84.9	% 87.8	% 75.1
		事業計面对比		% 79.3	% 92.1	
		10a当たり			円 34,761	
		1組合員当たり		a 1,255	円 4,362,408	

(ア) 引受の概況

3年産水稻 引受戸数は前年対比92.6%、引受面積は92.5%、共済金額は95.3%であった。引受方式ごとの引受面積の占める割合は一筆方式86.8%、全相殺方式は12.5%、半相殺方式は0.2%、地域インデックス方式は0.5%となった。

4年産麦 引受戸数は19戸減少し（前年対比85.6%）、引受面積は25,155.4a減少し（前年対比84.9%）、共済金額は68,222,913円減少した（前年対比87.8%）。引受減少の主な理由は収入保険への移行による。

(被 害)

共済目的	引受方式	被害組合員数	共済金	$\frac{\text{共済金}}{\text{共済金額}}$
		人	円	%
水稻	一 筆	831	68,841,166	0.8
	全 相 殺	44	19,610,932	1.6
	半 相 殺	1	48,480	0.2
	インデックス	1	28,684	0.0
	計	877	88,529,262	0.9
麦	一 筆	5	314,661	4.9
	災害収入	65	42,325,071	7.6
	計	70	42,639,732	7.6
合計		947	131,168,994	1.3

(イ) 被害の概況

水稻 移植期以降に、岐阜、西濃及び中濃地域でジャンボタニシによる食害があり、6月中旬以降、県下で日照不足等によりいもち病、紋枯病及び萎縮病が発生した。また、長雨により倒伏及び穂発芽が発生した。5月以降に中山間地域においてイノシシ、シカ等による獣害があった。

県下の金額被害率は0.9%（前年2.0%）、支払共済金は88,529,262円となり、前年より112,587,662円減少した。
 一筆方式は、被害面積30,292.4a、共済減収量372,523kg、共済金68,841,166円、金額被害率は0.8%（前年1.7%）
 全相殺方式は、被害面積30,889.6a、共済減収量140,695kg、共済金19,610,932円、金額被害率1.6%（前年4.4%）
 半相殺方式は、被害面積26.6a、共済減収量240kg、共済金48,480円、金額被害率は0.2%（前年0.0%）
 地域インデックス方式は、被害面積13.4a、共済減収量142kg、共済金28,684円、金額被害率0.04%（前年0.0%）
 農林水産省東海農政局による作況指数は、全国では101、県下98、西南濃99、中濃・東濃・飛騨は98であった。

麦 播種期から生育期間にかけての降雨の影響があり、過湿状態が続いたため、発芽不良により欠株や根の活力低下により穂数、穂長が確保できず、生育不良となり減収となった。また、5月からの長雨、日照不足により子実が肥大不良となり品質が低下した。中濃地域では黒節病が発生し減収となり、東濃地域では赤かび病が発生し出荷停止となった。また、一部地域にてシカによる食害があった。

一筆方式は、被害面積680.0a、共済減収量3,868kg、金額被害率4.9%（前年5.4%）
 災害収入共済方式は、生産金額の減少額42,325,071円、金額被害率7.6%（前年0.3%）

(ウ) 評価の概況

- 水稻 一筆方式及び半相殺方式は、被害の実態に応じた評価地区を設定し悉皆調査を行い、407筆抜取(実測)調査して悉皆調査との単収差を計算するとともに見回り調査も実施し当初評価高案を作成した。
全相殺方式は、被害申告のあった農家の出荷量を調査し、適正な損害評価に努めた。
損害評価会を一筆方式及び半相殺方式は12月10日、全相殺方式及び地域インデックス方式は3月9日に開催し、当初評価高案の諮問・答申を経て、組合員へ共済金を支払った。
- 麦 一筆方式では、支所ごとに評価地区を設定し岐阜支所及び東濃支所で収穫皆無、中濃支所で、10筆抜取(実測)調査して悉皆調査との単収差を計算するとともに見回り調査も実施し当初評価高案を作成した。
災害収入共済方式では被害申告のあった農家の出荷量を調査し、適正な損害評価に努めた。
損害評価会を一筆方式は7月21日に、災害収入共済方式は11月4日に開催し、当初評価高案の諮問・答申を経て、組合員へ共済金を支払った。

(支 払)

共済目的	引受方式	支払月日	実支払 共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払 共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
		月日	円	円	円	円	円	円	%
水稻	一 筆	12月24日から3月14日まで	68,841,166						100.0
	全 相 殺	3月22日	19,610,932						100.0
	半 相 殺	12月24日	48,480						100.0
	地域インデックス	3月22日	28,684						100.0
	計		88,529,262	0	10,392,198	78,137,064	0	0	100.0
麦	一 筆	8月2日	314,661						100.0
	災害収入共済	11月15日	42,325,071						100.0
	計		42,639,732	9,582,702	8,967,725	24,089,305	0	0	100.0
合計			131,168,994	9,582,702	19,359,923	102,226,369	0	0	100.0

(損害防止)

(1) 獣害対策

獣害防止のため組合員及び防除団体へ捕獲檻の貸与を継続し、有害獣駆除を支援した。

(2) 損害防止助成

補助事業者等が行った農作物損害防止事業に助成した。

- ・ 防除報作成補助 (36,350部)

(2) 家畜共済関係
(引 受)

区分	項目	有資格 頭数	事業計画 頭数	引受頭数	引受頭数/ 事業計画頭数	共済金額	徴収 共済掛金	納入 保険料	交付金	手持 共済掛金
		頭	頭	頭	%	千円	円	円	円	円
死亡 廃用 共済	搾乳牛	3,546	4,582	4,365	95.3	696,657	17,469,825			
	繁殖用雌牛	5,709	8,448	8,430	99.8	2,288,236	21,070,986			
	育成乳牛	1,830	3,645	3,461	95.0	746,170	1,982,341			
	育成・肥育牛	24,155	43,572	43,020	98.7	16,246,742	110,450,387			
	繁殖用雌馬	17	16	12	75.0	1,895	25,947			
	育成・肥育馬	141	110	44	40.0	7,105	370,763			
	種豚	3,997	2,830	2,916	103.0	169,708	18,670			
	肉豚	39,768	20,860	25,609	122.8	347,426	95,530			
	種雄牛	10	1	0	0.0	0	0			
	種雄馬	0	0	0	0.0	0	0			
	計	79,173	84,064	87,857	104.5	20,503,939	151,484,449	0	155,192,206	306,676,655
疾病 傷害 共済	乳用牛	5,376	4,425	4,802	108.5	68,000	23,506,942			
	肉用牛	29,864	30,244	31,189	103.1	250,666	31,835,667			
	一般馬	158	80	49	61.3	426	63,848			
	種豚	3,997	0	0	0.0	0	0			
	種雄牛	10	5	5	100.0	182	4,819			
	種雄馬	0	0	0	0.0	0	0			
	計	39,405	34,754	36,045	103.7	319,274	55,411,276	0	54,976,945	110,388,221
	合計	118,578	118,818	123,902	104.3	20,823,213	206,895,725	0	210,169,151	417,064,876

(参 考)

区分	共済目的	引受戸数	事 項	組合員数	引受頭数	共済金額	徴収共済掛金
死亡 廃用 共済	搾乳牛	82	前年度対比	% 90.1	% 92.0	% 87.2	% 89.4
			1頭当たり			円 159,601	
			1組合員当たり		頭 53.2	円 8,495,817	
	繁殖用雌牛	340	前年度対比	% 95.0	% 98.2	% 97.8	% 94.5
			1頭当たり			円 271,440	
			1組合員当たり		頭 24.8	円 6,730,106	
	育成乳牛	72	前年度対比	% 85.7	% 96.4	% 103.9	% 81.3
			1頭当たり			円 215,594	
			1組合員当たり		頭 48.1	円 10,363,472	
	育成・肥育牛	449	前年度対比	% 92.0	% 96.8	% 101.6	% 100.0
			1頭当たり			円 377,656	
			1組合員当たり		頭 95.8	円 36,184,281	
	繁殖用雌馬	6	前年度対比	% 75.0	% 75.0	% 67.0	% 75.5
			1頭当たり			円 157,917	
			1組合員当たり		頭 2.0	円 315,833	
	育成・肥育馬	14	前年度対比	% 93.3	% 41.5	% 34.9	% 40.0
			1頭当たり			円 161,477	
			1組合員当たり		頭 3.1	円 507,500	
	種豚	6	前年度対比	% 100.0	% 98.5	% 98.6	% 93.4
			1頭当たり			円 58,199	
			1組合員当たり		頭 486.0	円 28,284,667	

区分	共済目的	引受戸数	事 項	組合員数	引受頭数	共済金額	徴収共済掛金
死亡廃用共済	肉豚	7	前年度対比	% 116.7	% 126.1	% 143.9	% 140.2
			1頭当たり			円 13,567	
			1組合員当たり		頭 3,658.4	円 49,632,286	
	種雄牛	0	前年度対比	% 0.0	% 0.0	% 0.0	% 0.0
			1頭当たり			円 -	
			1組合員当たり		頭 -	円 -	
疾病傷害共済	乳用牛	85	前年度対比	% 93.4	% 111.3	% 94.8	% 94.2
			1頭当たり			円 14,161	
			1組合員当たり		頭 56.5	円 800,000	
	肉用牛	445	前年度対比	% 93.1	% 98.0	% 108.7	% 106.2
			1頭当たり			円 8,037	
			1組合員当たり		頭 70.1	円 563,294	
	一般馬	15	前年度対比	% 88.2	% 64.5	% 51.0	% 39.5
			1頭当たり			円 8,694	
			1組合員当たり		頭 3.3	円 28,400	
	種雄牛	5	前年度対比	% 100.0	% 100.0	% 102.2	% 91.1
			1頭当たり			円 36,400	
			1組合員当たり		頭 1.0	円 36,400	

(ア) 引受の概況

搾乳牛（△9戸）、繁殖用雌牛（△18戸）、育成乳牛（△12戸）、育成肥育牛（△39戸）は廃業等に伴う減少があった一方、豚熱後に再開した養豚農家による引受増があった。

死亡廃用共済は、引受延戸数は減少（△81戸）したが、大規模化の傾向及び肉豚の引受増加により引受頭数は3,110頭増加し、共済金額も214,042千円増加した。

疾病傷害共済は、引受延戸数（△41戸）、引受頭数（△187頭）は減少するも、共済金額の増額を推進した結果、15,819千円の増となった。

(事 故)

区分	死廃共済			
	死亡頭数	廃用頭数	総頭数	支払共済金
	頭	頭	頭	円
搾乳牛	124	176	300	29,514,304
繁殖用雌牛	71	81	152	32,921,233
育成乳牛	80	4	84	3,075,774
(子牛等) ※	71	1		
育成・肥育牛	814	195	1,009	192,575,101
(子牛等) ※	538	1		
繁殖用雌馬	1	0	1	107,200
育成・肥育馬	1	1	2	258,000
種豚	0	0	0	0
肉豚	0	0	0	0
種雄牛	0	0	0	0
種雄馬	0	0	0	0
計	1,091	457	1,548	258,451,612

区分	疾病傷害共済	
	件数	支払共済金
	件数	円
乳用牛	4,216	50,959,292
肉用牛	15,757	143,948,708
一般馬	9	125,463
種豚	0	0
種雄牛	1	12,483
種雄馬	0	0
計	19,983	195,045,946

令和3年4月～令和4年3月請求集計

※内数

(イ) 事故発生の概況

死廃事故

全畜種合計における前年対比で、頭数は144頭（前年対比91.4%）減少、支払共済金も34,221千円（前年対比88.3%）減少した。

頭数被害率（死廃頭数／引受頭数）では、前年度と比較すると、搾乳牛が7.3%（345頭/4,745頭）から6.9%（300頭/4,365頭）、繁殖雌牛が2.0%（173頭/8,585頭）から1.8%（152頭/8,430頭）、育成肥育牛が2.4%（1,075頭/44,432頭）から2.3%（1,009頭/43,020頭）となり、死廃事故は減少した。

病傷事故

全畜種合計における前年対比で、件数は480件（前年対比102.4%）増加し、支払共済金も3,015千円（前年対比101.6%）増加した。病傷事故のほとんどが牛で発生しており、発生に占める割合は件数、支払保険金ともに99.9%となっている。

頭数被害率（病傷頭数／引受頭数）は、前年度と比較すると、乳用牛が101.6%（4,382頭/4,313頭）から87.8%（4,216頭/4,802頭）と減少した。一方、肉用牛は47.4%（15,106頭/31,838頭）から50.5%（15,757頭/31,189頭）と増加した。

前年度は、夏場の高温により死廃事故、病傷事故ともに多かったが、今年度は冬場の低温が続き、肉用牛子牛の肺炎、腸炎の病傷事故が多かったためと考えられる。

(損害防止)

実施種目	対象頭数又は回数	経費概算	摘 要
特定損害防止	頭 (回) 0	円 0	未実施
一般損害防止	0	0	未実施
検診	184 (12)	23,210	無獣医地域の検診を行った。

(診療所)

診療所名	職員数	管内		診療件数		損害防止事業			適用
		有資格頭数	加入頭数	共済事故	事故外	特損	一般・検診	経費概算	
	人	頭	頭	頭	頭	頭(回)	頭(回)	円	
岐阜県農業共済組合 家畜診療所	9	39,405	36,026	1,791	2,796	0(0)	184(12)	23,210	無獣医地区 (上之保) の検診

(3) 果樹共済関係
(引 受)

年度	果樹区分		組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料(△) (B)	手持共済掛金 (A) ± (B)
			人	a	円	円	円	円
元年度	かき	災害収入共済方式(2年産)	116	3,696.5	50,556,000	1,040,930	338,212	1,379,142
		計	116	3,696.5	50,556,000	1,040,930	338,212	1,379,142
2年度	りんご	半相殺減収総合一般方式(3年産)	4	408.7	10,331,000	466,246	△ 114,128	352,118
		半相殺減収総合短縮方式(2年産)	2	28.1	1,024,000	27,796	△ 18,320	9,476
		半相殺特定危険方式(2年産)	7	1,208.7	33,874,000	723,680	△ 29,989	693,691
		計	13	1,645.5	45,229,000	1,217,722	△ 162,437	1,055,285
	なし	半相殺特定危険方式(3年産)	36	2,062.0	101,339,000	536,385	△ 196,648	339,737
		計	36	2,062.0	101,339,000	536,385	△ 196,648	339,737
	もも	半相殺減収総合一般方式(3年産)	1	125.0	3,637,000	61,830	△ 25,154	36,676
		計	1	125.0	3,637,000	61,830	△ 25,154	36,676
	かき	半相殺減収総合短縮方式(3年産)	127	3,471.0	63,943,000	1,503,740	577,580	2,081,320
		災害収入共済方式(3年産)	98	2,961.0	39,880,000	830,227	269,825	1,100,052
		計	225	6,432.0	103,823,000	2,333,967	847,405	3,181,372
	合計			275	10,264.5	254,028,000	4,149,904	463,166
3年度	りんご	半相殺減収総合一般方式(4年産)	6	610.8	17,865,000	787,082	△ 192,592	594,490
		半相殺減収総合短縮方式(3年産)	2	26.8	743,000	22,460	△ 5,000	17,460
		半相殺特定危険方式(3年産)	4	264.1	9,945,000	244,052	△ 41,257	202,795
		計	12	901.7	28,553,000	1,053,594	△ 238,849	814,745
	なし	半相殺減収総合短縮方式(4年産)	15	745.9	32,432,000	270,687	53,995	324,682
		計	15	745.9	32,432,000	270,687	53,995	324,682
	もも	半相殺減収総合一般方式(4年産)	1	126.3	3,529,000	60,007	△ 24,392	35,615
		計	1	126.3	3,529,000	60,007	△ 24,392	35,615
	かき	半相殺減収総合短縮方式(4年産)	116	3,198.2	57,460,000	1,063,730	858,765	1,922,495
		災害収入共済方式(4年産)	88	2,693.7	35,237,000	774,610	251,774	1,026,384
		計	204	5,891.9	92,697,000	1,838,340	1,110,539	2,948,879
	合計			232	7,665.8	157,211,000	3,222,628	901,293

(ア) 引受の概況

	引受面積 a	結果樹面積 a	引受率 %	前年対比 %	計画達成率 %
りんご	901.7	8,100	11.1	54.8	99.5
なし	745.9	11,700	6.4	36.2	56.1
もも	126.3	6,500	1.9	101.0	101.0
かき	5,891.9	122,000	4.8	91.6	86.5

りんご、なし及びかきについては、収入保険への移行等により戸数、引受面積ともに減となった。
りんごは、1戸 743.8 a、なしは、21戸 1,316.1 a、かきは、21戸 540.1 a 減少した。

(被 害)

果樹区分		被害 組合員数	共済金	共済金 共済金額
		人	円	%
りんご	半相殺減収総合一般方式（3年産）	3	1,909,290	18.5
	半相殺減収総合短縮方式（3年産）	2	93,400	12.6
	半相殺特定危険方式（3年産）	4	3,930,970	39.5
なし	半相殺特定危険方式（3年産）	0	0	0.0
もも	半相殺減収総合一般方式（3年産）	0	0	0.0
かき	半相殺減収総合短縮方式（3年産）	68	5,139,270	8.0
	災害収入共済方式（2年産）	30	4,374,145	8.7
計		107	15,447,075	10.3

(イ) 被害の概況

りんご 飛騨地域の減収総合一般方式、特定危険方式で、4月から5月にかけて断続的に低温が続き強い降霜が複数回発生したため、低温障害となり結実不良や変形果、サビ果が多発し大きな減収となった。
さらに減収総合一般方式では、8月上旬～8月中旬の多雨により病原菌が蔓延・拡大し、斑点落葉病・褐斑病が発生したが被害は軽微であった。一部園地では腐乱病が発生した。また、一部園地ではサルの食害が発生した。
東濃地域の減収総合短縮方式では、9月6日中津川市馬籠地区で降雹により傷果が多発し減収となった。8月中旬の多雨により病原菌が蔓延。斑点落葉病・褐斑病及び赤衣病が発生し、異常災害となった。

なし 無被害。

もも 無被害。

かき 減収総合短縮方式では、5月から梅雨時期にかけての長雨により炭疽病菌が蔓延し、8月中旬の多雨等により果実への感染が拡大し炭疽病が広域で多発し減収した。また、フジコナカイガラムシによるスス果・軟果が発生、カメムシによる被害も発生しているが軽微であった。一部園地では落葉病が発生した。8月中旬の多雨、8月中旬～9月上旬及び10月下旬の低温、9月下旬～10月中旬の高温による樹体ストレスや根の活力低下により、軟果が発生し減収、異常災害となった。
2年産の災害収入方式では、カメムシの発生量が例年より多く、吸汁害が山沿いの園地だけでなく平野部まで発生し、異常災害となった。

(ウ) 評価の概況

りんご 東濃地域、飛騨地域で実測調査を実施し、適正な損害評価に努めた。

かき 岐阜地域は検見及び実測調査、西濃地域は実測調査を実施し、適正な損害評価に努めた。

(支 払)

果樹区分		支払月日	実支払 共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払 共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
			円	円	円	円	円	円	%
りんご	半相殺減収総合一般方式（3年産）	3月22日	1,909,290	/	352,123	7,290	193,582	0	/
	半相殺減収総合短縮方式（3年産）	3月22日	93,400		22,738	24,814	0	0	
	半相殺特定危険方式（3年産）	3月22日	3,930,970		202,795	1,049,553	0	0	
なし	半相殺特定危険方式（3年産）	-	0		0	0	0	0	
もも	半相殺減収総合一般方式（3年産）	-	0		0	0	0	0	
かき	半相殺減収総合短縮方式（3年産）	2月21日	5,139,270		2,081,320	111,041	0	0	
その他の引受方式 合計			11,072,930	7,027,674	2,658,976	1,192,698	193,582	0	100.0
かき	災害収入共済方式（2年産）	6月21日	4,374,145	2,609,561	1,379,142	385,442	0	0	100.0
計			15,447,075	9,637,235	4,038,118	1,578,140	193,582	0	100.0

(4) 畑作物共済関係

(引 受)

年度	項目	組合員数	引受面積	共済金額	徴収 共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料(△) (B)	手 持 共済掛金 (A) ± (B)
	畑作物区分						
3 年 度	一筆大豆	人 13	a 2, 204. 3	円 2, 343, 323	円 75, 323	円	円
	全相殺大豆	108	134, 953. 2	282, 724, 977	14, 373, 863		
	計	延 121 実 114	137, 157. 5	285, 068, 300	14, 449, 186	729, 944	15, 179, 130

(参 考)

年度	共済目的	事 項	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金
3 年 度	大豆	前年度対比	% 89. 8	% 93. 7	% 87. 8	% 84. 8
		事業計画対比		% 103. 2	% 88. 6	
		10a当たり			円 20, 784	
		1 組合員当たり		a 1, 203. 1	円 2, 500, 599	

(ア) 引受の概況

引受戸数は13戸減少し（前年対比89.8%）、引受面積は9,227.7a減少し（前年対比93.7%）、共済金額は39,538,604円減少した（前年対比87.8%）。引受減少の主な理由は収入保険への移行による。

(被 害)

畑作物区分	項目	被害組合員数	共 済 金	共済金
				共済金額
		人	円	%
一筆大豆		6	303,395	12.9
全相殺大豆		51	31,735,767	11.2
計	延	57	32,039,162	11.2
	実	55		

(イ) 被害の概況

主な被害は土壌湿潤害で、一部で獣害や風水害があった。被害の概況としては、県下各地域で大豆の生育時期に差はあるが、8月中旬から9月中旬に平年と比較し、5倍から6倍程度の断続的な多雨や日照不足であったため、土壌過湿状態が続いた圃場が多かった。播種期に降雨が続いたため、条件が悪く播種作業が遅れた圃場では、多くで土壌湿潤害が発生した。被害を受けた圃場では、発芽不良や欠株が発生した。さらに根の活力低下により生育が停滞し、株の伸長が低くなるなど生育不良となり、莢つきも悪く収量が低くなった。

シカによる獣害は山沿いの一部の圃場で、育成期から収穫期に渡り発生した。また、東濃地域では8月の降雨により土砂が流入した圃場もあった。

各支所の主な被害としては、岐阜支所管内は土壌湿潤害、西濃支所、中濃支所及び飛騨支所管内は土壌湿潤害と獣害、東濃支所管内は土壌湿潤害、獣害、風水害であった。

一筆方式は、被害面積673.9a、共済減収量1,847kg、金額被害率12.9%（前年41.5%）。

全相殺方式は、被害面積63,446.1a、共済減収量157,069kg、金額被害率11.2%（前年10.8%）。

一筆方式、全相殺方式ともに異常災害となった。

(ウ) 評価の概況

一筆方式では、被害の実態に応じた評価地区を設定し悉皆調査を行い、25筆抜取(実測)調査して悉皆調査との単収差を計算するとともに見回り調査も実施し当初評価高案を作成した。

全相殺方式では、51戸のJA等出荷データによる出荷量調査を行い、適正な損害評価に努めた。

損害評価会を一筆方式は1月28日に、全相殺方式は3月22日に開催をし、特定組合等当初評価高案の諮問・答申を経て国に当初評価高を提出した。異常災害であったため、国からの認定が下りた後に組合員へ共済金を支払った。

(支 払)

畑作物区分 項目	支払月日	実支払 共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払 共済金 共済金
			保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
一筆大豆	2月10日	円 303,395	円	円	円	円	円	% 100.0
全相殺大豆	3月30日	31,735,767						100.0
計		32,039,162	15,174,174	15,179,130	0	0	1,685,858	100.0

(損害防止)

実施なし

(5) 園芸施設共済関係
(引 受)

施設区分		項目	組合員数	引受棟数	設置面積	共済価額	共済金額	徴収共済掛金(A)	交付金又は納入保険料(B)	手持共済掛金(A±B)
			人	棟	a	千円	千円	円	円	円
ガラス室	I類 (木造)									
	II類 (鉄骨)		44	74	1,012	1,676,854	1,458,179	1,017,194	597,995	1,615,189
プラスチックハウス	I類 (木竹)		1	1	3	524	419	12,537	12,126	24,663
	II類 (パイプ)		716	2,833	6,406	1,914,017	1,451,605	9,833,548	2,366,426	12,199,974
	III類 (鉄骨下)		121	189	1,662	781,007	584,327	1,599,014	648,696	2,247,710
	IV類(甲) (鉄骨中)		61	94	1,021	924,908	689,994	1,091,230	723,881	1,815,111
	IV類(乙) (鉄骨中)		80	122	1,586	1,659,896	1,283,782	796,836	585,843	1,382,679
	V類 (鉄骨上)		8	17	67	61,673	33,044	79,895	25,373	105,268
	VI類 (雨よけ等)		948	14,994	31,559	6,964,815	5,244,411	40,459,592	17,519,732	57,979,324
	VII類 (多目的ネット)									
計			1,979	18,324	43,316	13,983,694	10,745,761	54,889,846	22,480,072	77,369,918

(ア) 引受の概況

新規加入者が、岐阜支所5戸、西濃支所20戸、中濃支所17戸、東濃支所9戸、飛騨支所21戸の合計72戸あり、引受実戸数は1,281戸（前年対比101.7%）となった。また、新たにJAの作物部会等2集団と協定を締結し、集団加入割引による加入推進を行った。新規加入者の内29戸は集団加入により増加した。引受棟数は491棟減少し前年対比97.4%、共済金額は標準価額見直しにより4,361万円増加し前年対比168.3%となった。

(被 害)

項目 施設区分		被害			損害の額	共済金					共済金 共済金額
		組合員数	棟数	附帯 施設数		特定園 芸施設	附帯施設	施設内 農作物	撤去費用	合計	
		人	棟	基	円	円	円	円	円	円	%
ガラス室	I類 (木造)										
	II類 (鉄骨)	1	1	0	1,184,763		0	947,810	0	947,810	0.06
プラスチックハウス	I類 (木竹)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	II類 (パイプ)	28	45	0	5,424,750	3,858,173	0	378,414	103,008	4,339,595	0.30
	III類 (鉄骨下)	1	1	0	542,233	433,786	0	0	0	433,786	0.07
	IV類(甲) (鉄骨中)	2	3	0	114,793	91,833	0	0	0	91,833	0.01
	IV類(乙) (鉄骨中)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	V類 (鉄骨上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	VI類 (雨よけ等)	25	54	0	3,702,055	2,915,749	0	0	0	2,915,749	0.06
VII類 (多目的ネット)											
計		57	104	0	10,968,594	7,299,541	0	1,326,224	103,008	8,728,773	0.08

4月・5月・6月・7月・8月及び10月は岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨支所で風害、5月には西濃支所で病害（施設内農作物の被害）事故、8月の長雨により西濃支所で冠水（施設内農作物の被害）、東濃支所で水害（土砂崩れ、土砂流入）が発生した。12月・1月・2月及び3月は岐阜、中濃、東濃、飛騨支所で雪害、西濃、東濃、飛騨支所で風害が発生し被害棟数は前年対比113.0%の104棟となっている。また、復旧費用においては、令和2年12月の雪害の復旧が令和3年10月に完了し、復旧部分の共済金301,495円を支払った。

(ウ) 評価の概況

大災害時に備え、損害評価現地研修会を開催し損害評価方法について再確認等を行った。迅速な評価対応と早期支払いに努めた。

(支 払) ① 令和3年度に支払った、令和2年度事故の復旧費用の共済金

実支払共済金	共済金支払財源					実支払 共済金 共済金
	保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
	円	円	円	円	円	%
301,495	257,778	43,717	0	0	0	100.0

(支 払) ② 令和3年度事故に係る共済金

実支払共済金	共済金支払財源					実支払 共済金 共済金
	保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
	円	円	円	円	円	%
8,728,773	1,829,814	6,898,959	0	0	0	100.0

(支 払) ③=①+② 令和3年度実績

実支払共済金	共済金支払財源					実支払 共済金 共済金
	保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
	円	円	円	円	円	%
9,030,268	2,087,592	6,942,676	0	0	0	100.0

(6) 任意共済関係

1 建物共済
(引受関係)

区分 \ 項目	加入棟数	共済金額	共済掛金		一棟当たり 平均共済金額	任意保険料	保険手数料
			純共済掛金	賦課金			
	棟	万円	円	円	万円	円	円
火災共済	30,971	42,651,691	159,874,878	123,492,575	1,377		
総合共済	4,908	6,051,240	105,324,404	39,585,548	1,233		
計	35,879	48,702,931	265,199,282	163,078,123	1,357	150,546,754	46,373,902

(注) 総共済掛金額 428,277,405円
 任意保険割合 火災30%、総合(地震等)50%、総合(地震等以外)30%
 保険手数料割合 事務費賦課割合から保険事業比率(4.5%)を控除した率

(ア) 引受の概況

総合共済の加入棟数は、前年よりも221棟増となり前年対比104.7%、共済金額は106.5%と増加したが、火災共済は2,703棟減となり前年対比92.0%、共済金額は92.4%と減少した。全体では加入棟数が前年対比93.5%、共済金額が93.9%となった。

(事故関係)

区分 \ 項目	事故棟数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金(ロ)		任意保険金	被害率 (ロ)/(イ)	備考
			火災	風水害等			
	棟	万円	円	円	円	%	
火災共済	104	42,651,691	80,023,206			0.0188	
総合共済	118	6,051,240	6,989,433	23,208,244		0.0499	
計	222	48,702,931	87,012,639	23,208,244	33,066,179	0.0226	

建物共済原因別事故発生状況

事故の原因	事故棟数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	任意保険金	被害率 (ロ)/(イ)	備考
	棟	円	円	円	%	
落雷	82		12,733,283			
融雪	41		11,403,069			
建物外部からの物体の落下等	27		1,376,904			
強風	24		7,259,333			
盗難による汚毀損	9		848,529			
給排水設備	8		2,344,438			
水道管破裂	6		264,780			
風水害	5		2,124,936			
雪害	5		819,333			
火災	4		66,568,103			
類焼	4		2,516,125			
大雨・豪雨	3		1,591,519			
建物内部の車両衝突	2		332,970			
車両の飛び込み	1		27,507			
土砂崩れ	1		10,054			
計	222	487,029,310,000	110,220,883	33,066,179	0.0226	

(イ) 事故の状況

事故棟数は222棟（前年対比111%）、1億1,022万円（前年対比95.1%）の支払いで、昨年に比べ融雪・強風が多かったが共済金は減少した。うち全焼は3棟4,157万円の支払いとなった。
また、落雷は82棟（前年対比82.8%）と減少した。

2 農機具共済
(引受関係)

加入台数	共済金額	共済掛金		一台当たり 平均共済金額
		純共済掛金	賦課金	
台 4,596	万円 1,734,278	円 57,612,090	円 25,043,484	万円 387

(ア) 引受の概況

加入台数は前年よりも695台増となり前年対比117.8%、共済金額は114.9%と増加した。

(事故関係)

事故台数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	被害率 (ロ)/(イ)
台 420	万円 1,734,278	円 145,258,386	% 0.8376

農機具共済原因別事故発生状況

事故の原因	事故台数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	被害率 (ロ)/(イ)
	台	円	円	%
接触	253	/	70,701,131	/
異物の巻き込み	110		43,211,234	
衝突	28		15,231,279	
その他(飛び石)	19		1,519,348	
転覆	3		8,976,269	
墜落	3		577,733	
獣害	2		689,293	
落雷	1		4,122,140	
火災	1		229,959	
計	420		17,342,780,000	

(イ) 事故の状況

事故台数は420台(前年対比115.4%)、共済金は14,526万円(前年対比108.3%)と増加した。
主な事故原因は接触、異物の巻き込みであった。